



# CITY & LIFE

都市のしくみと暮らし

No. 47 Spring 1998

特集 老いない住宅

## 特集 老いない住宅

日本の住宅は、スクラップ・アンド・ビルドがなかば常識化し、20年、30年の寿命といわれています。

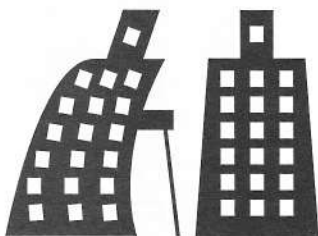
一方、欧米では、100年、200年住むのは珍しくなく、中には中世に建てられた現役住宅もあるほどです。

こうした住宅の耐用年数の違いはどこからくるのでしょうか。

今、ビルを社会資本として位置づけ、積極的にストックとして維持していくべきであるという考えが、建築の分野で話題になっていますが、

「丈夫で長もち」は一般の住宅においても同様に要求されている課題です。

ストック時代に向けて、「老いない住宅」の可能性を探ります。



# Contents

No. 47 Spring 1998

## インタビュー構成 三〇〇年もつ集合住宅をつくる

……ストック時代のロングライフ住宅 福永博

2

## インタビュー構成 住宅長寿国に学ぶ

……ヨーロッパのロングライフ住宅 後藤久・太田邦夫

16

## ケーススタディ 家族の成長に合わせて変化する住宅

……「老いない住宅」へのもう一つの視点

25

## インタビュー 集合住宅の再生 松村秀一

31

## 一〇〇年住宅を目指す

……WPC工法(壁式プレハブ鉄筋コンクリート)はなぜ強いのか

37

## 連載 都市を拓いた人々 25 長崎

44

## INFORMATION

48

## バックナンバーのお知らせ

49